

14187 文化人類学Ⅱ Cultural Anthropology II 14111 文化人類学（後期分）		1 年次～ 後期 2 単位	
担当者	志賀 市子	履修可能学科	E Pe Pc C選必 W F N
		関連資格	学芸・日本語(E・P・e・P・c・C)
サブタイトル	文化人類学の実践と学史の理解		
授業内容	ねらい： 文化人類学Ⅰを終了した学生のために、宗教人類学、医療人類学、観光人類学など、最新の研究成果についての知見を深める。また文化人類学の学史について学ぶことによって、近代ヨーロッパの知から生まれた文化人類学という学問のなりたちとその可能性について理解を深める。		
ねらい	授業の概要 宗教人類学、医療人類学、観光人類学の概論を行った後、それぞれの分野について、比較的良好に知られたトピックをとりあげ、世界各地の事例を紹介するとともに、最新の研究成果を解説する。最後に、文化人類学史の流れを概観し、ヨーロッパ、アメリカ、日本における文化人類学の歴史について解説する。		
授業計画	授業計画 第1回：宗教人類学① 宗教人類学とは 世界の宗教 第2回：宗教人類学② シャーマニズム① 成巫過程 第3回：宗教人類学③ シャーマニズム② シャーマンの社会的機能 第4回：宗教人類学④ 宗教的世界観 第5回：医療人類学① 医療人類学とは 第6回：医療人類学② 文化と病気観 第7回：医療人類学③ ヘルス・ケア・システムと臨床人類学 第8回：医療人類学④ 文化と衛生観念 第9回：観光人類学① 観光人類学とは 第10回：観光人類学② ホスト・ゲスト関係からみる観光 第11回：観光人類学③ 観光とメディア 第12回：観光人類学④ 多民族国家とエスニック・ツーリズム 第13回：文化人類学史① 近代ヨーロッパの知の拡大と人類学の誕生 第14回：文化人類学史② 日本の文化人類学史 第15回：まとめと試験		
教科書 参考書	とくに指定しない。参考書については、授業中に随時紹介する。		
評価方法	1. 試験（またはレポート） 2. 平常点（授業中に書かせる小レポート、授業への積極的参加度） 3. 出席率以上3点から評価する。		
事前準備学習 履修条件等	文化人類学Ⅰを履修済であることが望ましい。		